

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）事後評価結果

大学名	名古屋大学
整理番号	B4
事業名	ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A⁻	一部でやや不十分な点はあるものの、概ね事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現されたと判断された。
コメント 本事業は、アジアのハブ大学を目指して研究・教育に力を注いできた名古屋大学のこれまでの実績に基づき、名古屋大学の諸部局とカンボジア、ミャンマー、ラオス、ベトナム及びシンガポールの6大学の連携部局との間で、学生派遣と受入を相互に行い、実務及び現場を重視する国際共同教育プログラムを実施し、多国籍企業や公的機関で活躍できる「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」の育成を目指した事業である。 事業展開では、全体として事業計画を上回る規模での学生の派遣・受入が推進され、コロナの影響下で最終年度は実派遣を中止せざるを得なかったにもかかわらず、最終的に派遣・受入数共に目標数を上回り、更に、短期派遣に参加した学生の半数ほどが、その後さまざまな制度により長期留学へ参加するという効果も生まれ、学生の国際化が推進された点は高く評価できる。また、学生交流を推進するための学術交流協定の締結や、単位化・単位認定に必要な参加証明書の導入によりプログラムの質保証に取り組んだ。各プログラムでは、相手大学のニーズに合った企業・公的機関・地域と協働したプログラムを提供し、参加学生・教員に対しての評価アンケートにより、課題設定が適切であったか、プログラム内容は充実していたか、時間配分が十分であったか等のフィードバックを得て、魅力的な大学間交流の枠組みの形成を進めたことも高く評価できる。また、留学における危機管理や日常生活に関して派遣・受入学生にきめ細かく対応している。 一方で、カンボジア王立農業大学との学生交流数が計画より大きく増えたことが、派遣日本人留学生数及び受入外国人留学生数の目標達成の要因であり、他のプログラムでは目標を下回っている。また、コロナ禍でのオンライン交流の実施も積極性に欠ける面があり、改善に向けたより積極的な対応が必要である。更に、中間評価時に指摘された、事業計画に沿った中長期の交流活動の実施及び「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」の育成に向けた統一感のある教育プログラムの展開という課題への対応についても、一層の可視化が望まれ、更なる工夫が必要である。本事業における各プログラムでの取組内容と「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成の上での成果と課題を全学的に把握し、今後の国際教育プログラムの展開に活かしていくことを期待したい。 最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	